

令和5年度 第2回
全国健康保険協会岐阜支部評議会

岐阜支部の課題を踏まえた今後の取組について

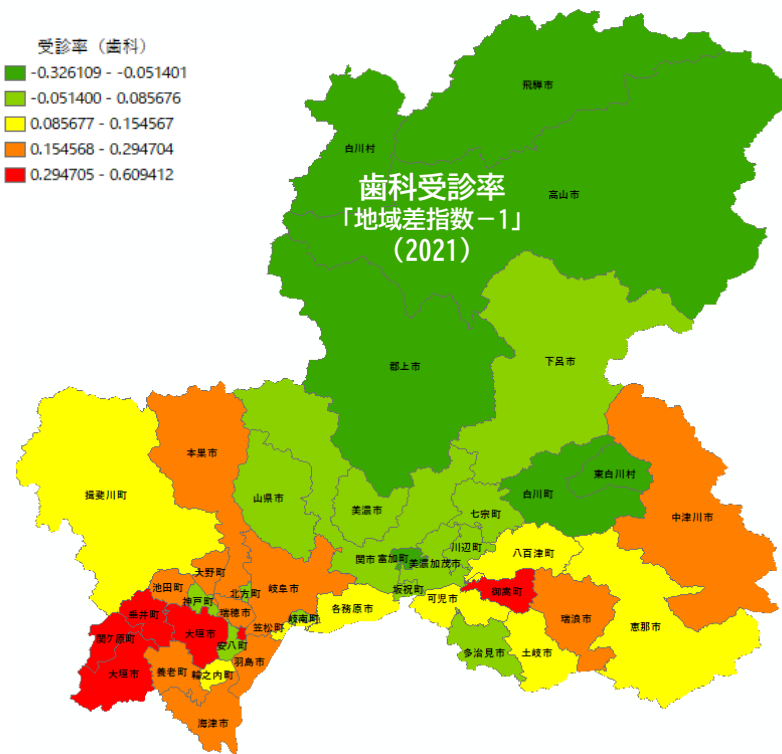
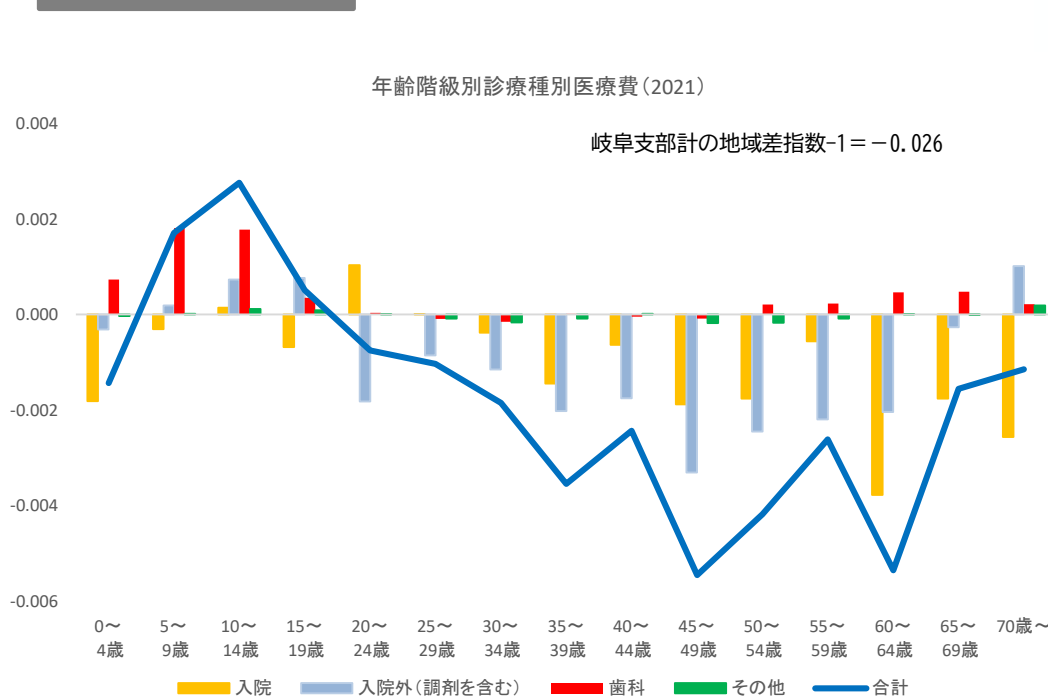
1	<p>◎若年層の医療費が全国平均よりも高い（特に歯科医療費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5歳刻み年齢階級では、特に5歳～9歳、10歳～14歳が高い ・診療種別では入院外・歯科が高い。特に歯科は0～19歳で全国平均より高くなっている ・また、全世代を通じた歯科の受診率は全国で1番高い 	<p>「地域差指数-1」 を比較(*)</p>
2	<p>◎診療時間外の受診が多い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加入者1人当たりの受診回数が全国平均より多く、費用がかかっている ・2021年度より初診は増加、再診は減少しているものの、全国順位は下位である（初診 41位・再診 41位） ・再診での診療時間外受診が多いため、緊急でないケースが含まれると考えられる 	
3	<p>◎生活習慣（運動・飲酒・睡眠）の要改善者割合が多い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メタボでない人が多いのに、運動が足りないと思っている人が男性・女性ともに全国のなかでも多い ・飲酒習慣要改善者の割合が男性は全国のなかで下位である ・睡眠で休養が取れていない者の割合が男性・女性ともに全国のなかで下位であり、かつ悪化傾向にある 	

(*) 「地域差指数-1」について・・・全国平均と比較した場合の高低を見ることができます。

地域差指数-1とは、医療費等の地域差を表す指標として、1人当たり医療費等について、年齢調整し、全国平均を「0」として指数化したものであり、0より大きい数値であれば全国平均より高い水準にあり、0より小さい数値であれば全国平均より低い水準にあることを示しています。

① 若年層の医療費が全国平均よりも高い(特に歯科医療費)

現状評価



課題

- ・5歳刻み年齢階級では、特に5歳～9歳、10歳～14歳が高い。
- ・診療種別では入院外・歯科が高い。特に歯科は0～19歳で全国平均より高くなっている。
- ・また、全世代を通じた**歯科**の受診率は**全国で1番高い**。

① 若年層の医療費が全国平均よりも高い(特に歯科医療費)

施策(案)

■ターゲットを絞り込んだ啓発の実施

- ・子育て世代に広く届く広報を行う一方、特に5~14歳の被扶養者を持つ被保険者(親)あてには、適切な媒体を選択し、複合的な適正受診啓発を行う。
- ・レセプトデータの分析結果から、効果的な対策を検討する。
- ・他の重点施策(診療時間外受診・生活習慣の改善)と連動する。

■歯科医療費(受診率)が高いことに対する対策

- ・歯科レセプトデータの分析結果から、効果的な対策を検討する。

■市町村等との連携

- ・福祉医療(乳幼児・こども医療費助成)と関わりが強いテーマであるため、保険者協議会や自治体との効果的な連携をする。

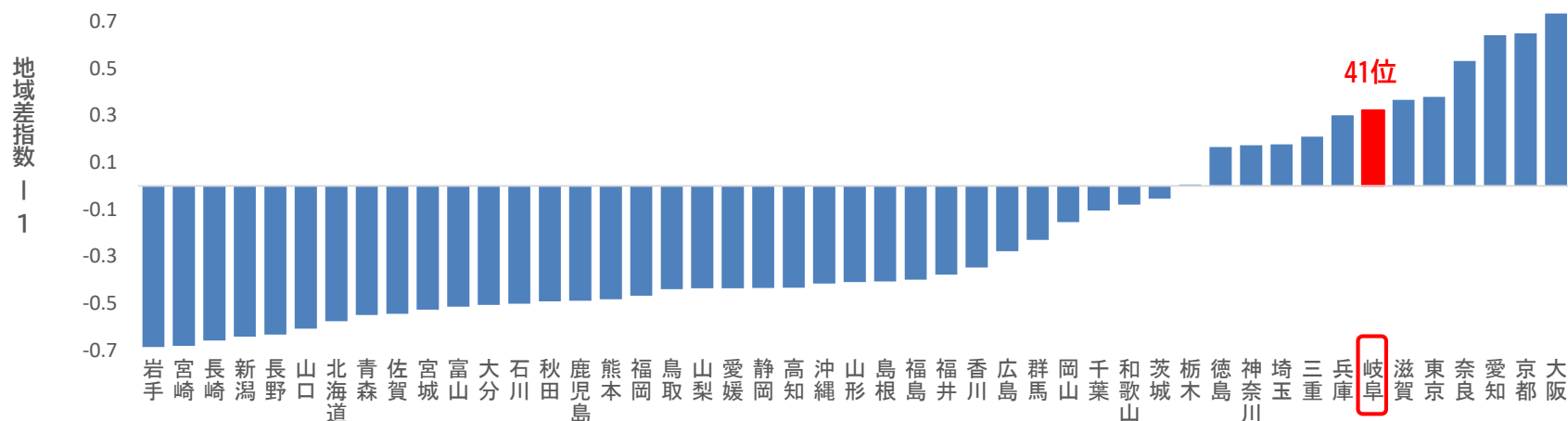
<検証方法>

- ・年齢階級別診療種別地域差指数等により検証を行う。
- ・診療内容(レセプトデータ)の分析結果により、この課題に対する取組の必要性を検討する。

② 診療時間外を受診が多い

現状評価

診療時間外受診の加入者1人あたり算定回数（2022）【再診】



課題

- ・ 加入者1人当たりの受診回数が全国平均より多く、費用がかかっている。
- ・ 2021年度より初診は増加、再診は減少しているものの、全国順位は下位である。
（初診 41位・再診 41位）
- ・ 再診での診療時間外受診が多いため、緊急でないケースが含まれると考えられる。

② 診療時間外を受診が多い

施策(案)

■効果的な啓発（広報）の実施

- ・ **年末受診に向けた広報**（ホームページ・メールマガジン・広報紙等）
 - ・ #8000（子ども医療電話相談事業）の広報
 - ・ #7119（救急安心センター事業）の広報
- 令和5年10月から対象エリアが5市町村から県内全域に拡大することを周知。

■上手な医療のかかり方.jp（厚生労働省）との連動

- ・ 診療時間外受診は**医師の過重労働の一因**となっていることを広報する。

■市町村との連携

- ・ 自治体との効果的な連携をする。

<検証方法>

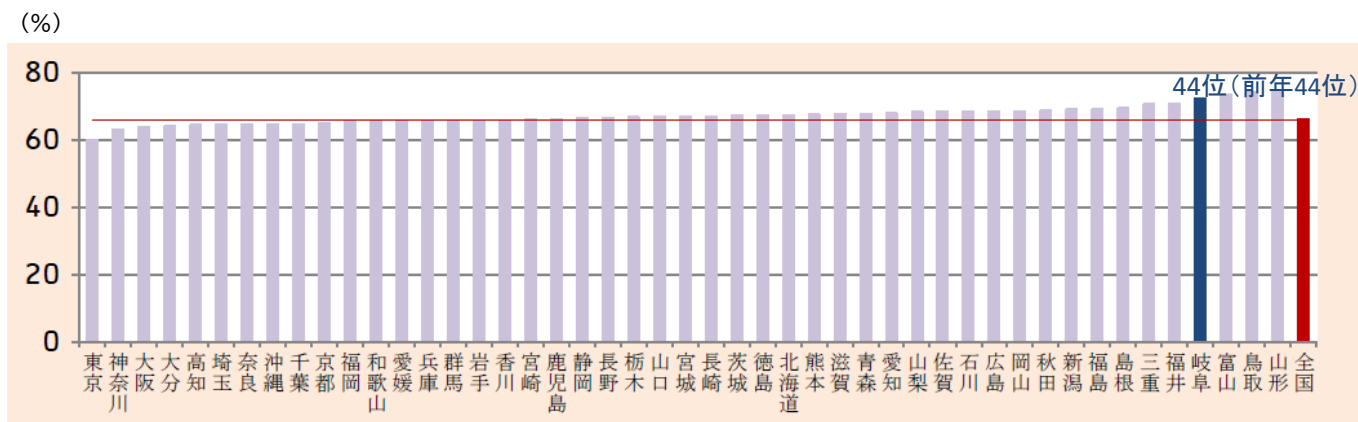
- ・ 時間外受診の加入者1人当たり算定回数や市町村別医療費の地域差指数の変化により、効果を検証する。

③ 生活習慣(運動・飲酒・睡眠)の要改善者割合が多い

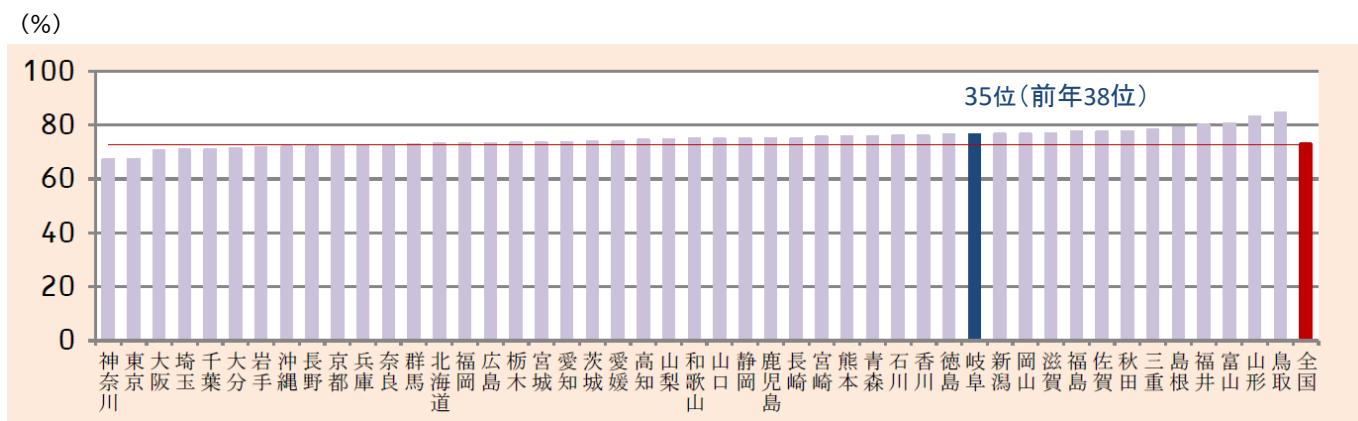
現状評価

運動習慣要改善者の割合

男性



女性



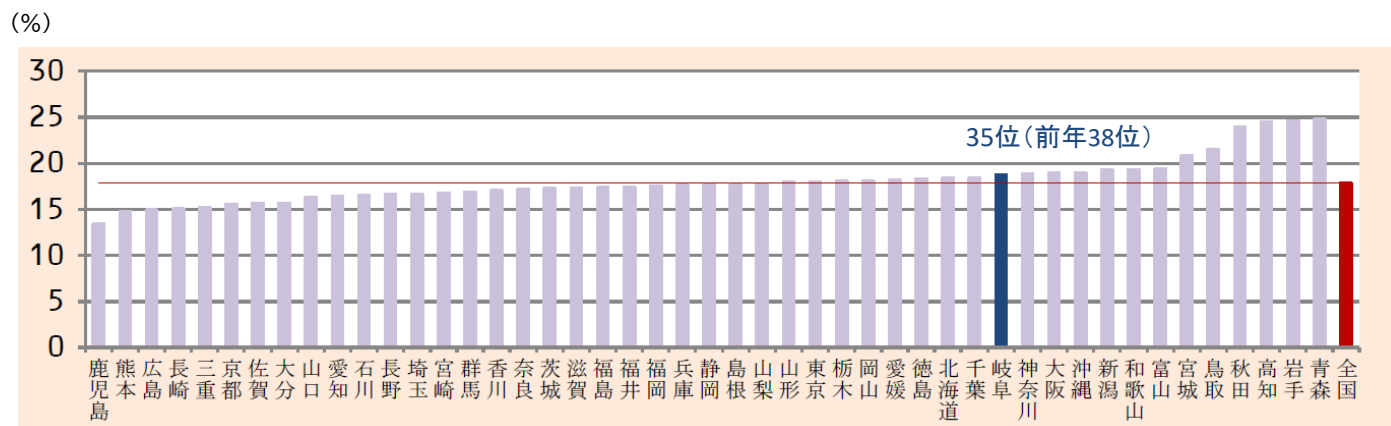
*2022年度支部別スコアリングレポート(岐阜支部)より抜粋

③ 生活習慣(運動・飲酒・睡眠)の要改善者割合が多い

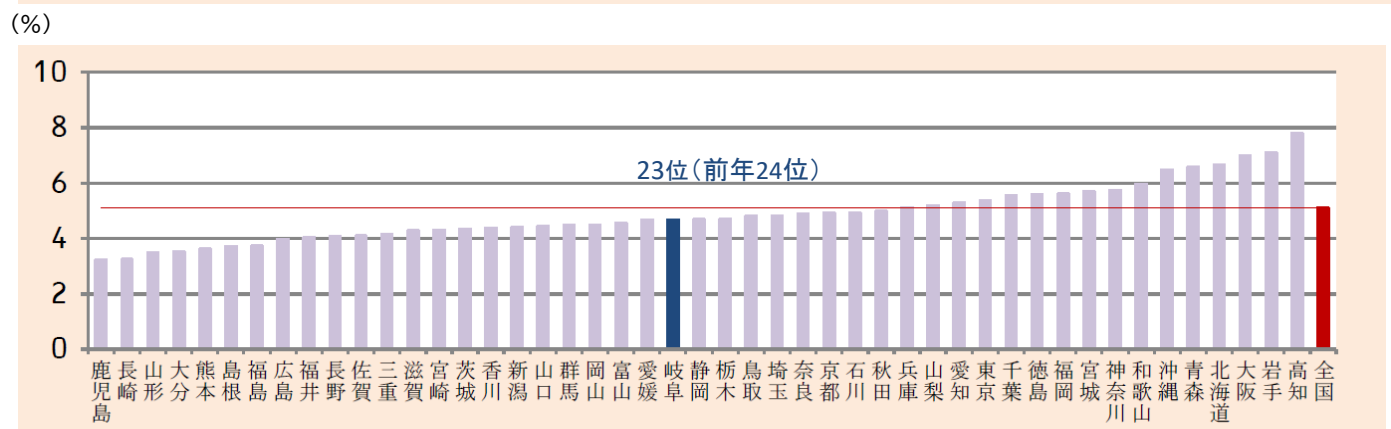
現状評価

飲酒習慣要改善者の割合

男性



女性



*2022年度支部別スコアリングレポート(岐阜支部)より抜粋

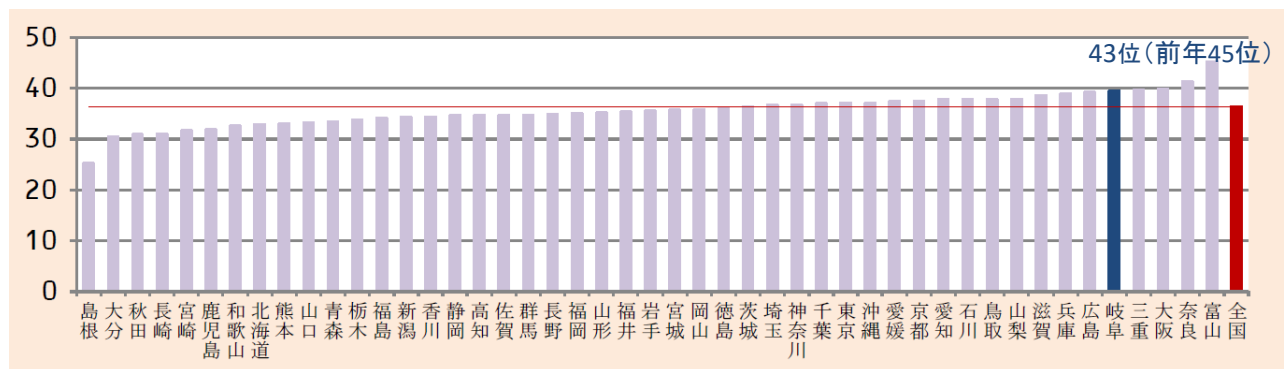
③ 生活習慣(運動・飲酒・睡眠)の要改善者割合が多い

現状評価

睡眠で休養が取れていない者の割合

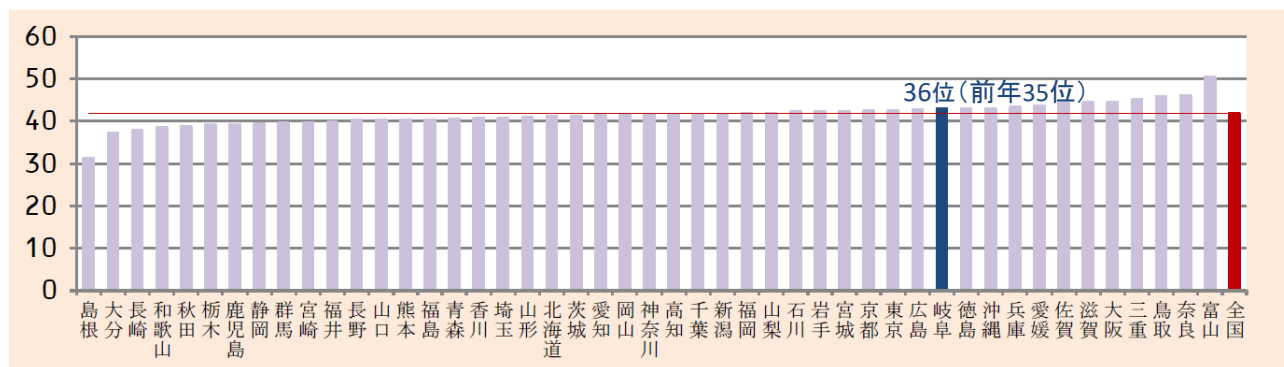
(%)

男性



(%)

女性



*2022年度支部別スコアリングレポート（岐阜支部）より抜粋

③ 生活習慣(運動・飲酒・睡眠)の要改善者割合が多い

課題

- ・メタボでない人が多いのに、**運動が足りない**と思っている人が男性・女性ともに全国のなかでも**多い**。
- ・飲酒習慣要改善者の割合が男性は全国のなかで下位である。
- ・**睡眠で休養が取れていない者の割合**が男性・女性ともに**全国のなかで下位**であり、かつ悪化傾向にある。

施策(案)

■ 「職場の健康講座」を開催する

- ・健康宣言事業所や健康保険委員設置事業所に対し、「**職場の健康講座**」として運動、飲酒、減塩、禁煙、睡眠の講座を前年度より回数を増やして開催する。
- ・講座の開催は、専門の外部業者へ委託する。
- ・開催する事業所には、健診、保健指導、健康宣言に関する勧奨を行う。

■ 事業所への情報提供

- ・運動や飲酒、食事、睡眠に関する情報を**事業所が自由に活用できる**ようHPへの掲載を引き続き行う。
- ・睡眠不足はメンタルヘルス不調が契機となっている可能性があるため、メンタルヘルス支援を行っている産業保健総合支援センターと連携して事業所の支援を行う。

<検証方法>

- ・問診結果の変化について、健康講座の実施と未実施、健康保険委員設置の有無や健康宣言の有無により効果を検証する。